

2023年度 公立大学法人大阪第7回役員会議事要旨

日 時：2023年10月11日（水）9時30分～10時25分

場 所：阿倍野キャンパス医学部学舎1階応接室

構成員：福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、
中村理事、宮部理事(オンライン)、帯野理事、藤沢理事(オンライン)

陪席者：白井監事(オンライン)、前田監事(オンライン)、市橋事務局長、大久保事務局次長、
石井事務局次長、船野学長室長、千田総務部長、柴山企画部長、中井総務課長

【審議事項】

特になし

【報告事項】

1 2022事業年度の業務実績に関する評価結果について

担当理事および企画課長より、2022事業年度の業務実績に関する評価結果について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・評価結果を受けて、具体的なアクションを起こすことは無いのか。
- ・現状ではフィードバックに繋げることは十分できていないが、今後第2期に向けて、大学統合の効果を上げるための目標・計画を策定していきたい。

2 第2期中期目標・中期計画（検討WG設置など）について

担当理事より、第2期中期目標・中期計画（検討WG設置など）について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・中期目標の学内評価結果の主な判断理由について、個々の項目毎に戦略、KPIは設定されているのか。
- ・毎年策定する年度計画の中で可能な範囲で経済的、客観的、量的な指標を設けている。
- ・5年間不変の指標と、短期の指標をどのように割り振るかが大学経営で重要となる。
- ・大学側が策定する中期計画に沿った指標を設定するというスタンスでよいのではないのか。
- ・今後項目が25程度となり簡素になるので、逆に当該項目に更に注力していく必要があるのか、項目が削減された分、人的余裕ができるのか。

3 主要な国補助金の獲得状況について

担当理事より、主要な国補助金の獲得状況について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・期間限定の補助金については、事業終了後にどの財源で継続するかが求められる。内部のスクラップアンドビルドの中で新しい財源を生み出し、充当することが必要である。内部マネジメントと併せて、事業を継続すべきである。
- ・不採択となった際に事業を断念するのでは大学の品格が問われるので、大学の予算で実施し、その際に可能であれば補助金で賄うという考え方を持つべきである。
不採択となった事業については、大学側で原因を精査するなど、振り返りと支援を実施いただきたい。

- ・ダイバーシティとは、多様性であり女性を含む全ての多様な人材を受け入れるということ。障がい者の受け入れについては中期目標および今後の補助金申請に向けてどのような状況であるのか。森之宮キャンパスもできることから、障がい者向けのハザードマップの作成について検討いただきたい。
- ・障がい者の受け入れについて数値目標が義務化されており、知的障がい者の受け入れに関する事業については、少額ではあるが補助金もある。次期目標を策定する際に検討いただきたい。

4 中百舌鳥・杉本・あべの・森之宮Cの施設整備状況について

施設担当部長より、中百舌鳥・杉本・あべの・森之宮Cの施設整備状況について説明がなされた。

<主な意見等>

- ・施設整備工事においてCO2の排出量が高くなることを見込まれるので、完成する施設がどの程度環境に配慮されたものであるのか示していただきたい。

【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、音声機器の不調により、一部出席者の発言内容が不明確な状態であったが、終了後に確認することで議題の審議等を終了した。

以 上